

学級活動	「夏休みの暮らし方」	
2 学年	実施の時期 実践者	平成15年7月 鳴瀬町立小野小学校 千葉 友吉

1 指導概要

① 対象学級・人数

2年生 34名 (男15名、女19名)

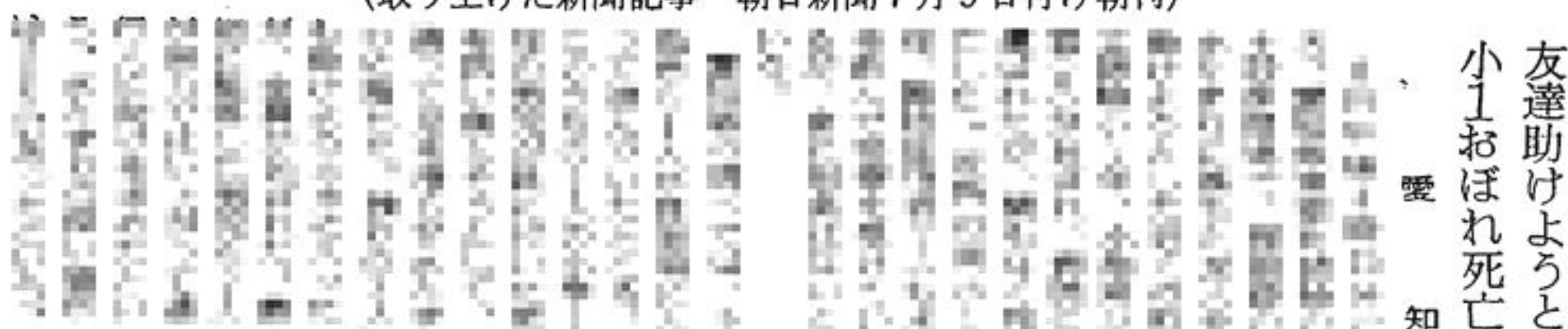
② 児童の実態

自分の意見をはっきりと話すことができる児童とあまり自分の思いや意見を話すことが苦手な児童に分かれる。また、友だちの発言に自分の考えが左右される児童が多い。新聞については、テレビ欄やマンガに興味を持っているが、事件や事故については、テレビのニュースなどから情報を得て、知っている児童が数名いる程度である。

③ 指導の構想

本校では、NIEの実践研究協力校の指定を受けている。そこで、今回は、学級活動の「夏休みの暮らし方」で、夏休み前に小学1年生が採掘場の水たまりに落ちて死亡するという新聞記事を取り上げ、児童が夏休みを安全に過ごすためにはどんなことに気をつけて生活すればよいかを考えさせる。

(取り上げた新聞記事 朝日新聞7月9日付け朝刊)



④ 実践の概要

A 実践日時 平成15年7月17日

B 指導の実際と児童の反応

段階	学習活動	児童の反応
つかむ	1 夏休みの予定を発表する。	T: みんなは夏休みにどこかに行く予定がありますか? C: 海に行く。 C: お母さんの実家に行く。 C: ディズニーランドに行く。 C: ともたちと遊ぶ。 C: まだわかんない。

考 え る	<p>2 新聞記事を読む。</p> <p>①児童に読ませる。</p> <p>②教師がゆっくり読む。</p>	<p>T：何が書いてあるか、自分で読んでみよう。</p> <p>C：「小1おぼれ死亡」って書いてある。</p> <p>C：死んだんだ。1年生が。</p> <p>C：どうして？</p> <p>C：わかんない。</p> <p>T：どこで、どうして死んだのかよく聞いてね。</p> <p>T：何時ごろかなあ</p> <p>T：〇〇チャンの家の近くにも採掘場があるね。</p> <p>T：くつについた泥を洗おうとして、滑ったんだね。</p> <p>T：全員が水に入ってしまったんだね。</p> <p>T：2.5mって、この教室の高さぐらいだね。みんなの身長よりももっと高いね。</p>
み つ め る	<p>3 夏休みの過ごし方を考える。</p>	<p>T：夏休みを安全に過ごすためにどんなことに気をつけなければよいでしょう。</p>

2 成果と課題

①成果

・あまり読んだことのない新聞だったが、「小1おぼれ死亡」という見出しを読んで、何が書いてあるのかを想像することができていた。また、教師が読みくだきながら進めることは、記事の細部を知り、その状況を考えたり、児童の身近な危険箇所を想像したりして読むことができた。

・夏休みを安全に過ごすために気をつけることについて、児童は「道路への飛び出しをしない」「交通ルールを守る」などの交通事故に対することが多く、次に「川などの危険な場所で遊ばない。」「火遊びをしない。」「出かけるときには親に言う。」「知らないおじさんについていけない。」「帽子をかぶる」などと続き、さまざまなことを考えることができた。

②課題

・新聞を読む機会がこれまであまりなかった児童にとっては、初めての試みだったので、少し戸惑いがあり、1年生が死亡するという事実は、少し驚きを与えてしまった。

・児童の書いた内容を見ると、記事についての感想を書いている児童や、「事故にあわないようにする」といった、抽象的な内容を書いている児童もおり、児童自らが気をつけてほしいことからずれてしまった児童への配慮が足りなかった。また、本人あるいは友人が、事故にあった場合、冷静に行動することの大切さまで深めることができなかった。

③今後の指導について

・低学年の学級活動だけでなく教科指導の中で、どこで、どのように新聞を活用したほうがよいのか、低学年の児童に適した記事なのかなどを、教師が考えて指導することが大切である。